

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

でんとうてき

ぎょうじ

げいのう

伝統的な行事と芸能

かなうらのひったか

金浦のひったか

新高総早倉矢井浅里
見梁社島敷掛原口庄
市市市町市町市町

笠岡市



かん けい ば しょ
関係のある場所

かさ おか し かなうら ち く
・笠岡市金浦地区



ぎょう じ

この行事について

「金浦のひったか」は、金浦に伝わる伝統行事です。元は旧暦5月5日の行事でしたが、現在ではそれに近い土曜の夜に「ひったか」を、翌日曜の昼に「おしぐらんど」を挙行します。その沿革は、不明な点が多いですが、どちらも源平合戦に由来する行事といわれています。「ひったか」は、提灯で絵模様を描く火祭りです。吉田川をはさんで東にある行者山（源氏方で白い幟）と西にある妙見山（平家方で赤い幟）の中腹に木枠を組み、それに約300～400個の提灯をつるして、絵模様を浮かび上がらせ、その絵柄を競い合います。図柄は、当日まで秘密にされますが、その年の話題が題材になることが多いです。

当日の夜は、出店が出て金浦のまちが大いにぎわいます。言い伝えによれば、平家方が付近の山で大規模なかがり火をたいて大軍を装い、せまる源氏方を退散させた故事にちなむとされ、「火を高く焚く」が語源となったといわれています。